



運転状況

敦賀発電所1号機・2号機

甲第  
/  
号証  
の  
/

2011年11月06日 15時10分

1号機		2号機	
発電機出力 (定格出力 35.7万kW)	0 万kW 0 %	発電機出力 (定格出力 116万kW)	0 万kW 0 %
排気筒モニタ測定値	2 cps	排気筒モニタ測定値	8 cps
放水口モニタ測定値	3 cps	放水口モニタ測定値	11 cps

- 敦賀発電所1号機は、平成23年1月26日より、第33回定期検査を実施しております。  
定期検査状況については、[こちら](#)をご覧ください。

<定期検査開始に伴う停止実績>

平成23年1月25日20時00分 出力降下開始  
 1月26日 0時00分 発電機解列  
 1月26日 5時22分 原子炉停止

- 敦賀発電所2号機は、平成23年5月7日より、1次冷却材中の放射能濃度の上昇に伴う漏えい燃料の特定調査のため、プラントを停止していましたが、引き続き、8月29日より第18回定期検査を実施しております。

<プラント停止実績>

平成23年5月7日 9時00分 出力降下開始  
 5月7日17時00分 発電機解列  
 5月7日20時00分 原子炉停止

- 測定装置や伝送装置の点検作業時やデータ通信エラー発生時は、データが表示されず、「-」表示となる場合があります。
- 平成23年10月11日より平成24年3月中旬にかけて、モニタリングポスト（MP）及びモニタリングステーション（MS）の機器更新のため、敦賀2号機放水口モニタの値が「-」と表示される時間帯がありますが、発電所内では継続して指示値を監視しております。
- 放水口モニタのデータは、降雨等の影響によってその値が変動する場合があります。
- 運転中にクラゲ等の海生物が多量に取水口に漂着した場合、1号機では復水器出口弁開度、2号機においては循環水ポンプの翼開度を調整することに伴い運転出力が僅かに低下することがあります。
- 排気筒モニタの指示値は、発電所内の作業や運転操作により変動することがありますが、指示値は監視しており、環境への影響が問題ないレベルであることを確認しています。
- 敦賀発電所2号機の放水口モニタの値は、運転停止等のために放水流量（海水流量）が少なくなり、湧水に含まれる天然放射性核種などの影響を受け、変動することがあります。

[運転状況一覧へ](#)



甲第 / 号証 の 2

## 定期検査状況

### 敦賀発電所1号機

#### 第33回定期検査

8月2日現在の状況

<a href="#">8月2日現在の状況</a>	<a href="#">7月12日現在の状況</a>
<a href="#">6月8日現在の状況</a>	<a href="#">5月2日現在の状況</a>
<a href="#">4月7日現在の状況</a>	<a href="#">3月4日現在の状況</a>
<a href="#">2月4日現在の状況</a>	<a href="#">1月26日の状況</a>

敦賀1号機は、2011年1月26日（水）より、第33回定期検査を開始しました。

#### (実績)

#### (今後の予定)

年月日	内容
2011年1月26日	0時00分 発電機解列
	5時22分 原子炉停止

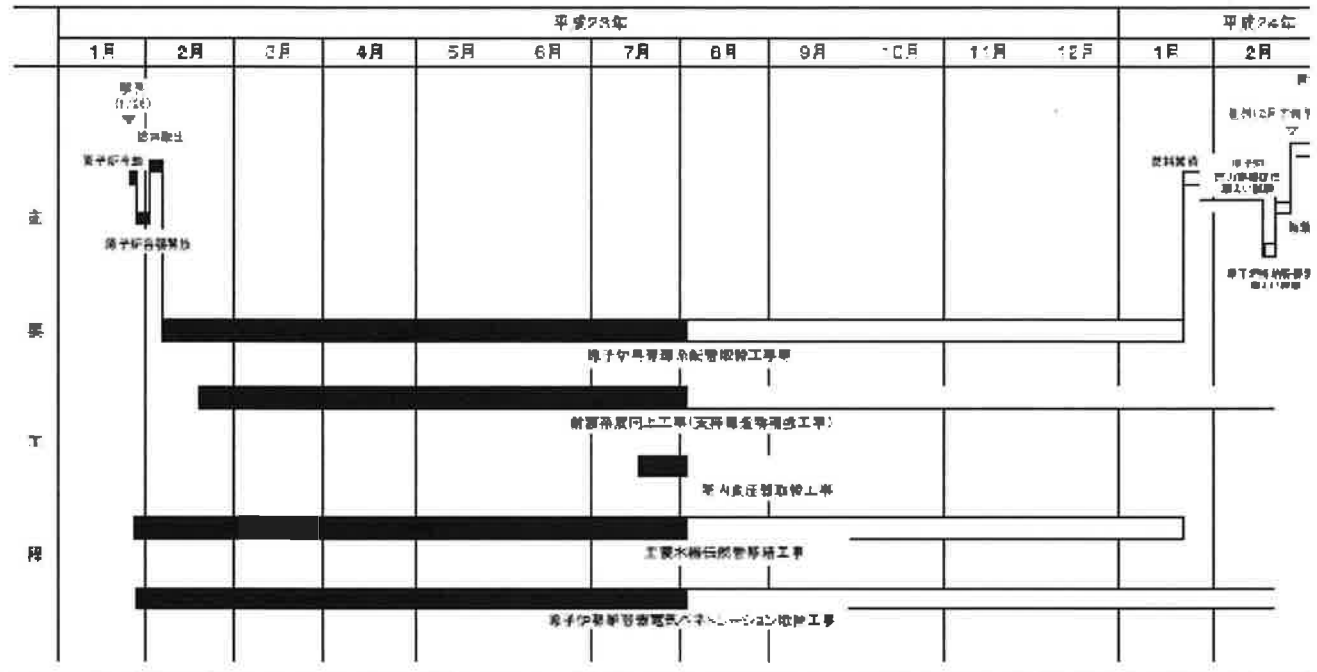
予定日	内容
2012年2月下旬	原子炉起動
2012年2月下旬	発電再開（調整運転開始）
2012年3月上旬	営業運転再開（第33回定期検査終了）

#### 関連プレスリリース

[敦賀発電所1号機の第33回定期検査開始について（1月24日）](#)

# 1. 敦賀発電所1号機 第33回定期検査工程表 (2011年8月2日現在)

敦賀発電所1号機 第33回定期検査工程表



[拡大図はこちらから \[PDF\]](#)

## 2. 定期検査の実施状況

### (1) 主要な工事等

#### 1. 耐震裕度向上工事 (工事概要図)

既設設備の耐震裕度を一層向上させるため、格納容器冷却系等の配管サポートやケーブルトレイを強化します。

#### 2. 所内変圧器取替 (工事概要図)

所内変圧器のコイル絶縁性能が経年劣化の傾向にあることから、予防保全として所内変圧器を新品に取り替えます。

#### 3. 原子炉再循環系配管取替工事 (工事概要図)

原子炉再循環系配管について、応力腐食割れに対する予防保全の観点から、耐食性に優れた材料に取り替えます。また、この取り替え時の作業性を考慮し、原子炉再循環系につながる原子炉停止時冷却系および非常用復水器系の配管の一部、および原子炉再循環ポンプの延長ノズルについても取り替えます。

#### 4. 主復水器伝熱管修繕工事 (工事概要図)

主復水器伝熱管からの海水漏えいを防止するため、伝熱管の肉厚測定を行い、減肉が大きい伝熱管を取り替えます。

#### 5. 原子炉格納容器電気ペネトレーション取替工事 (工事概要図)

電気ケーブルが通っている原子炉格納容器の貫通部（電気ペネトレーション）について、気密性を保つ樹脂の経年劣化に対する予防保全として電気ペネトレーションを新品に取り替えます。

## 6. バイタル電源用無停電電源装置取替工事 (工事概要図)

給水制御系等の主要な制御系設備に電源を供給しているバイタル電源用無停電電源装置の電子部品が製造中止となったことから、今後の保守性を考慮し、最新設計のものに取り替えます。

## 7. プロセス計算機等取替工事 (工事概要図)

プラント運転データの監視を行うプロセス計算機や原子炉手動制御系制御装置、移動式炉心内較正装置、警報装置の電子部品が製造中止となったことから、今後の保守性を考慮し、最新設計のものに取り替えます。

## 8. 原子炉圧力容器等の供用期間中検査工事 (工事概要図)

供用期間中検査として、原子炉圧力容器溶接部の超音波探傷検査、原子炉再循環ポンプBのケーシング内面等の目視検査、原子炉再循環ポンプ3台のケーシング溶接部※の浸透探傷検査、原子炉再循環ポンプC入口弁の内面等の目視検査を行い健全性を確認します。

※：今定期検査で行なう原子炉再循環系配管の取替範囲を検討していた際に、原子炉再循環ポンプのケーシングに溶接箇所が存在する可能性が認められたため、湿分分離器ドレンタンクフランジ部からの漏えいに伴う停止中（2010年6月10日～7月30日）に現場調査を行いました。  
その結果、溶接箇所が確認されたため、浸透探傷検査を行い健全性を確認しました。溶接箇所は供用期間中検査の対象であることから、今回の定期検査から供用期間中の検査に反映し、点検を実施していくこととしました。

### (2) 設備の保全対策

#### 1. 給水・復水系統等の配管肉厚検査 (工事概要図)

当社が定めた配管肉厚管理点検計画に基づき、給水・復水系等の配管 298箇所について、超音波検査（肉厚測定）等を実施します。また、過去の点検で減肉が認められる部位47箇所を炭素鋼または耐食性に優れた低合金鋼の配管に取り替えます。

### (3) 燃料集合体取替

燃料集合体全数308体のうち、40体（全て新燃料集合体で9×9燃料集合体）を取り替える予定です。

以上

© 2011 The Japan Atomic Power Company. All Rights Reserved.



日本原子力発電株式会社

The Japan Atomic Power Company

## 定期検査状況

敦賀発電所2号機

### 第18回定期検査

8月29日の状況

8月29日現在の状況

敦賀2号機は、2011年8月29日（月）より、第18回定期検査を開始しました。

### 関連プレスリリース

敦賀発電所2号機の第18回定期検査開始について（8月26日）

#### 1. 定期検査の実施状況

##### (1) 主要工事等

###### [1] 亜鉛注入装置設置工事（工事概要図）

作業員の被ばく低減の観点から、コバルト-60等の放射性物質が1次冷却材系統などの機器や配管内表面へ付着することを抑制する<sup>※1</sup>ため、亜鉛を注入する装置を化学体積制御系に設置します。

※1 1次冷却材中に放射化しにくい亜鉛を注入して、機器や配管内表面に皮膜を形成させることにより、コバルト-60等の放射性物質が機器・配管内表面へ付着することを抑制し、1次冷却材系配管などの線量を低減します。

##### (2) 設備の保全対策

###### [1] 2次系配管の点検工事

当社が定めた「配管肉厚管理手引書」に基づき、2次系配管407箇所について超音波検査等（肉厚測定）を実施します。

	「配管肉厚管理手引書」の 点検対象部位	今回点検実施部位
主要点検部位	1, 557	378
その他部位	1, 650	29

合 計	3, 2 0 7	4 0 7
-----	----------	-------

**(3)燃料集合体取替**

燃料集合体全数193体のうち、97体（うち72体は新燃料集合体）を取り替える予定です。

**(4)福島第一原子力発電所事故を踏まえた特別点検等<sup>※2</sup> (工事概要図)**

非常用電源に接続した使用済燃料ピットの水位計および温度計を設置します。

※2 非常用炉心冷却システムの健全性確認、格納容器スプレイリングの健全性確認、使用済燃料ピットポンプの分解点検、使用済燃料ピットの水位監視カメラの設置については、燃料漏えいに伴う停止期間中に実施しました。

以上

© 2011 The Japan Atomic Power Company. All Rights Reserved.